

新年あけましておめでとうございます。

昨年は日中平和友好条約締結40周年の年でした。安倍首相が訪中し、日中両国の政治関係が正常な関係に回復しました。私たちは今こそ日中間交流を可能な限り拡大し、民間の相互理解を深める「以民促民」の年にしていきたいと思ひます。

学院においても本科・研究科、日本語科、別科の三本柱の学生数がようやく安定してきました。昨年は全教室の空調設備を更新しました。新しい年において、学生の皆さんがよい環境で、より充実した授業が受けられるように、全教職員が一致協力して努力していきたいと考えております。別科の教科書である「学漢語」の改訂作業にも着手します。

人と動物との違いは何でしょうか。人は言葉を持つが、動物は言葉を持たないという点です。「考える人」というロダンの有名な彫刻があります。考える時、人は言葉によって考えます。言葉は考える道具でもあるのです。そして考えたことを人に伝えることによって、人との意思疎通ができるのです。

ですから中国語を学び、日本語を学ぶ日中学院は考えることができる人材を養成する大変重要な場所でもあるのです。そのためにも、語学以外の課目や講座を設けていますし、外部講師による「講演会」や学生による「文化祭」を引き続き行います。

午前中の授業を終えた本科の学生と午後授業を受ける日本語科の留学生は、昼休みの時間を利用して、学院のロビーで自由に交流ができます。学生の皆さんが他の語学学校にはない日中学院の有利な環境を活かして、「辺学辺用」、「活学活用」を実践して欲しいと思ひます。また、日中学院は毎年、北京短期留学や天津短期研修を行ってきました。日本での学習の成果を確認し、さらに自信を付けるために、やり方を改善しながら今年も実施したいと考えております。

日中学院には他の語学学校にはない「中国語を学んで日中友好の架け橋になろう」というスローガンがあります。言葉は意思疎通の手段ですが、使い方によって言葉は相手を傷つける手段にもなるし、相互理解と友好を深める道具にもなります。私たちは「何のために中国語や日本語を学ぶのか」と言うことを新しい年を迎えるに当たってもう一度かみしめたいと思ひます。

今年は猪年に当たります。日本語では「猪突猛進」という勇ましい言葉しか思い浮かびませんが、むしろ「深思漸進」という心構えで進んで行きたいと思ひます。一方、中国には「猪是六畜之首」(豚、牛、羊、馬、鶏、犬の中で最も重要)、「猪糧安天下」(養豚が盛んになり、食料が豊作であれば、天下は安定する)という言葉があります。アフリカ豚コレラの蔓延が気になりますが、日中関係がさらに安定するよう願っています。

学院長 片寄浩紀



2018.11.17 日中学院校友会
留学生とのバスハイイクで
ミカン狩りに行きました!

A 先生の新語コーナー



mínsù “民宿”

民泊。一般の民家に旅行者等を有料で泊めること。中国では都市や農村の大量の遊休住宅資源に依拠した民泊業がシェアリングエコノミーの新たな目玉となりつつある。国内の遊休住宅は6500万軒を超えるが、再利用されているのはそのうちの0.5%弱とされ、短期賃貸の民泊は空き家対策の面からも注目されている。「途家」は中国最大の民泊紹介サイトを運営しており、利用者はパソコンやスマホで手軽に予約できるという。(A)

新しい時代へ

平成最後の年を迎えました。来たる新時代への希望を抱き、今月は本学院で学ばれた後、日台中にわたって長年ご活躍のお二人の著書をご紹介します。

日本生まれの中国語作家 新井一二三さん

《再見平成時代》大田出版



平成とはどんな時代であつたらう。1989年の幕開けから今日までをふりかえり、皇室問題から社会、政治、経済、文化芸術等にわたり、揺れ動いた平成時代を回想し論じる。

繁体字で書かれてあるが、内容は、あまロス、ちびまる子ちゃん、「保育園落ちた、日本死ね」など、だれでも知ってる身近な話題が多いので読みやすい。

繁体字で書かれてあるが、内容は、あまロス、ちびまる子ちゃん、「保育園落ちた、日本死ね」など、だれでも知ってる身近な話題が多いので読みやすい。

『中国語はおもしろい』講談社



何度読んでもおもしろい。本書をうんちくを並べた退屈な語学の手引書と想像したら、強烈パンチをくらう。

小気味よい軽妙なりズムで中国人との型破りな体験談などを爽快に語る。そのなかでも特筆すべきは本学院の創設者、倉石武四郎著の『岩波中国語辞典』が役立った話だ。

この辞典は他の中日辞典のように親字から引くのではなく、英和辞典のようにアルファベット順のピンインで引く。日本人特有の漢字脳を捨て去ることが必要なのだ。この辞典を引かなかつたばかりに高級幹部の不良息子共が発するお下劣な言葉を意味を知らずに真似し、大学の授業で連発。赤っ恥をかいた話などを読むと、わが中国語の人生はなんと消極的でおもしろくないとしみじみ情けなくなる。

台湾生まれの日本語作家 温又柔さん

温さんは三歳の時に日本に移住する。家族には植民地時代に「國語」とされた日本語を流暢に話せる祖父、そして台湾語まじりの中国語を話す両親がいる。

3種の母語のなかで成長する温さんの描く主人公たちは、日本語のみを母語とする日本人たちの環境のなかで、幼い頃から自己のアイデンティティーへの問いかけをはじめめる。

『台湾生まれ 日本語育ち』白水社で2016年日本エッセイスト・クラブ賞を受賞。



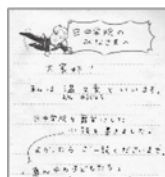
台湾で生まれた人々にとって母語を語る際、日本の統治時代や蒋介石の国民党による弾圧の歴史が切り離せない。エッセイでは歴史とともに、個人と言葉の関係が綴られていく。

個人の母語を否定し強制や矯正をすることは、その人の人格人権、人生をも否定することになる。個人と言葉の関係はもっと自由で寛大で、尊重されるべきはず。それがその人の個性であり、人生だからだ。その思いは日中学院を舞台（注1）にした『真ん中の子どもたち』集



英社の小説でも著され、外国語を学ぶ私たち、そして語学学校のありかたにも一石を投じた。

本書は2017年芥川賞にノミネートされ、主人公「あいこの」転じた「愛の子」＝「真ん中の子」は日本語のみを母語とする日本人をはじめ、幅広い読者たちに新たな境地を切り開いた。



（注1）温さんから寄贈本と共に寄せられたメッセージ「日中学院のみなさまへ（中略）日中学院を舞台にした小説を書きました（後略）」とある。

一新着図書（出版社省略）

『人民の名のもとに』上下巻（原著名《人民的名義》）

周梅森 著 岩切沙樹 訳

『元年春之祭』陸秋槎 著 稲村文吾 訳

『二〇二五年、日中企業格差』近藤大介 著

ほか、図書室掲示板にてお知らせしています。

一寄贈

下記の方々より寄贈がありました。御礼申し上げます。

● 新井一二三様（著者）より《再見平成時代》

● 竹中憲一様（編者）より

『安斎庫治聞き書き 日本と中国のあいだで』

日中学院文化祭報告

2018年10月27日に例年通り日中学院文化祭が行われました。日中友好会館地下ホールでの舞台発表、日中学院での展示や模擬店など、にぎやかな一日となりました。

本科生・日本語科生を代表した委員は、6月頃から会議を重ね準備作業を進めていました。文化祭直前には、各クラスの準備なども遅くまで作業する姿も見受けられました。文化祭委員を代表して委員長の感想文をご紹介します。



本科2年 展示（北京留学報告）

日中学院は様々な年代の方々が中国語を学んでいる学校で毎年本科生、別科生、中国からの留学生も一緒になって一つの文化祭を作り上げます。私自身二次次からの編入の為、今回が初めての参加になりました。

毎年本科では二年次に北京の人民大学に留学に行くのですが、その時から文化祭の出し物や発表などクラスでどのような出し物をするのか話し合い始めました。夏休み明けから本格的に内容を考え毎週学校全体での話し合いも始まり誰がどの役割をするなどを決め次第に緊張感が増してきました。

文化祭当日は、学校関係者、卒業生やご家族の方々などいらして彼方此方で久しぶりに顔を合わせる方など各々が先生方に近状報告をしている姿も多く見かけました。僕ら本科2年生は北京の人民大学に行った際に中国の先生に紹介していただいた北京欢迎你の合唱、また留学に行った際の感想や思い出の写真のシェアをしようと言うことで展示会。それに加えてクラスの出し物で茶叶蛋を

作りました。展示会はそれぞれが撮った写真を集め、また思い出の写真とその感想を展示し前日までが残って準備や装飾をしました。茶叶蛋は買い出しに行く人、作る人などを決め当日はすぐに完売してしまいました。北京欢迎你はそれぞれ時間のない中で毎週練習を重ねた成果もあり最終的に成功させることができました。また、それぞれのクラスの発表も素晴らしく、笑いも多くありとてもいい文化祭になりました。

しかし問題点として役割を決めていたのですが照明の確認や細かい役割分担など本番になるとどうしてもバタバタする場面もありもう少し頑張れたのかなと自分の中で後悔もあり、一方でもっと宣伝活動を頑張れ外部からのお客さんをもっと招待できればよかったなというのが一つの課題として残りました。私は今回の文化祭が最初で最後なのですが来年の日中学院の文化祭はOBとして楽しみに参加したいと思います。

（日中学院 文化祭委員長）



書道クラス展示



中国結び講座展示



文化祭委員



日本語科2-2



日本語科2-1スベアリブスープ



日本語科1-1ピリ辛串鍋



本科1年レストラン三話



本科2年太極遊記



校友会ピースリーディング

1 月の日中学院

星期日	星期一	星期二	星期三	星期四	星期五	星期六
		1 ●冬期休業(～6)	2	3	4	5
6	7 ●仕事始め ●別科272期授業開始	8 ●別科公開講座 18:45～(入門、基礎)	9	10 ●本科、日本語科 授業再開	11	12
13	14 ●休日	15 ●中国語検定受付開始	16 ●日本語科2年 国会見学	17	18 ●本科2次入試 受付締切	19
20 ●本科2次入試	21 ●本科追試 (～25)	22 ●本科2次入試 合格発表	23 ●本科3次入試 受付開始	24	25	26 ●本科生のための 公開講座 (9:30～)
27	28	29	30	31		
●2月の日中学院 ・4日…日本語科 春節パーティ ・5日…春節 本科、日本語科 合同弁論大会 ・15日…本科3次入試受付締切		・17日…本科3次入試 ・19日…本科3次入試合格発表 ・20日…本科4次入試受付開始 ・22日…本科、日本語科 定期試験(～28日) ・28日…日本語科 授業最終日			図書室開館時間 (別科学期間休みは異なります。) 月～金 12:00～18:45 土 12:00～18:00	